

学校経営推進費 評価報告書(2年目)

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制課程
取り組む課題	英語教育の充実
評価指標	A. 英語力の向上に関して ①実用英語検定準2級以上合格者の割合 ②日本英語検定協会英語能力判定テストの伸び率 ③センター試験の英語の平均点の上昇 ④授業アンケートでの英語の授業における「生徒意識」結果の向上 B. 生徒の進路実現等に関して ①国公立大学進学者数の増加 ②難関私立大学進学者数の増加 ③外部機関の学力調査における学力の向上
計画名	「桜塚フラワープラン YES WE CAN !!」 生徒の英語力の飛躍的な向上をめざして

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1. 学ぶ力をつける (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高め、生徒の授業満足度が高い授業が行えるように全教員の授業力の向上を組織的に取り組む。(4) 基礎的学力の強化 平成26年度から導入した朝学(総合基礎)の更なる充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実を図る。(5) 放課後講習の組織化と拡大 自習室を整備したことを踏まえ、放課後講習の組織化を進め放課後の学習機会を確保・拡大していく。 (7) 平成27年度入学生から専門コース(グローバルスタディコミュニケーションコース[文系]とグローバルスタディサイエンスコース[理系])制を導入することにより、コース生はもちろん、コース生以外の生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国公立50名以上「関関同立」250名以上の合格を目標とする。 4. グローバルリーダーの育成 (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。その為に、海外語学研修、国際交流に努め生徒の国際的な視野を育むとともに、授業に言語活動を積極的に取り入れ、英検やTOEFL等の資格取得を進めることに取り組む。(3) 「めざす学校像」を実現させる為に、平成27年度入学生から専門コース制を導入することにより、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
事業目標	生徒の英語の力を向上させ、英語のコミュニケーション能力を育成するにあたって、まずは英語の基礎力を充実・強化させるために「ICT機器を活用した授業」を積極的に推進する。電子黒板の活用において視覚や聴覚に訴えるコンテンツを提供することで「見てわかる授業」「常にネイティブの発音に触れる授業」「生徒の興味関心を引く授業」とすることができ、「板書時間の削減」もできるので「集中力を切らさない、密度の濃い授業」を実現できる。またタブレット端末はアクティブ・ラーニング形式の授業を行う際の「情報の収集」「情報の加工」に活用でき、「情報発信力の強化」「コミュニケーション能力の向上」等が期待できる。その際は生徒4人で一つの班とするグループワークとする。もちろん英語以外の教科でも活用できる。このアクティブ・ラーニング型の授業は今年度から導入する「グローバルリーダーの育成」のための専門コースにおける課題解決型の学びを深める学校設定教科「グローバルスタディ」での授業でも実施する。この専門コース制導入による独自の教育プログラムの開発を通じ、文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)の研究指定を実現する。加えて、外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。10月に英語能力判定テストを全校生徒対象に実施すると共に、第2学年の3学期には全員が英検を校内受験することにより、英検準2級以上の合格者数を飛躍的に伸ばすとともに、その運用能力の向上を図り、国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路実現に寄与する。なお、外部講師の活用については、2年目及び3年目に英検のみならずTOEFL Junior®Comprehensiveまたは同Standardの受験にも活かしていくことで、英語の4技能を世界基準で高めていく。
整備した 設備・物品	電子黒板(超短焦点型プロジェクター9台) タブレット(22台)及び収納カート(2台) 無線LAN環境構築のためのルーター等 電子黒板に接続して使用するノートPC(Surface3・キーボード機能付きカバー、タッチペン含む)1台 電子黒板に接続して使用するスティック型PC(m-Stick PS01F 7台)及び接続用機器(USB-LANハブ・HDMI接続アダプタ)7台
取組みの 主担・実施者	取組みの主担 A:「英語力の向上」に係る主担; 英語科、海外語学研修PT、国際交流・英語力向上PT B:「生徒の進路実現」に係る主担; 進路指導部、授業力向上等検討委員会、朝学PT 取組みの実施者: 全教員
本年度の 取組内容	① 2学期以降、英語外部講師の活用により次の2つの取り組みを行った。 ア. 希望生徒に講習の形で実施 英語検定の教材を使用し、英語の4つの技能を高めるためのトレーニング(1回75分)を8回行った。26名名の生徒が希望し受講した。 イ. 科目『英語理解』において、GSCコースのクラス20人ずつに、英語の4つの技能を高めるための授業を14コマ行った。 ② 先進事例の研究のため首席が愛媛の県立高校を訪問して、タブレットを活用した授業展開や環境整備について学び、帰校後その情報を全員で共有した。 ③ 英語、理科等でタブレットを用いた授業を行った。ペアになり相互に英語で挨拶している様子をムービーで撮影し、発音や表情のチェックをNEIにしてもらったり、ボールを高所から落としてそれを撮影し、落下にかかった時間を測定して重力加速度を求めるなどした。また体育で生徒の動きをムービーで撮影し、修正箇所の指摘を行った。これは部活動でも同様にした。加えて、公立高校進学フェア等でタブレットを使って学校広報を行った。ほぼすべての教科で電子黒板を使用する授業展開を行うようになった。 ④ 「タブレットの授業での活用法」をテーマに、12月16日に外部講師による教員研修を行った。
成果の検証方法 と評価指標	「1. 事業計画の概要」における「評価指標」の欄にある記号を参照。比較の基本は平成26年度(以下、2年目3年目も同じ) A①: 英検準2級以上の取得者数を100人増加させる。A②: 日本英語検定協会英語能力判定テストの平均点を10点上昇させる。 A③: センター試験英語の平均得点が全国平均点を達成する。(本校/全国平均; 筆答 126.2/123.7 リスニング 23.8/28.1) (○) A④: 「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」を3.01以上ににする。B①: 国公立大学進学者10人増加。B②: 難関私立大学者数を200名以上を維持。 B③: 外部機関の学力調査の判定値の1ランク上昇。
自己評価	※ (記号説明) 大きく上回った(◎)、上回った(○)、達成できず(△)、実施できず(×) A①: 英検準2級以上の取得者数を100人増加させる。(224人→334人) (◎) A②: 日本英語検定協会英語能力判定テストの平均点を10点上昇させる。(1年生+22点、2年生+3.5点、3年生+17.4点) (◎) A③: センター試験英語の平均得点が全国平均点を達成する。(本校/全国平均; 筆答 126.2/123.7 リスニング 23.8/28.1) (○) A④: 「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」を3.01以上にする。→3.04(◎) 「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」を3.01以上にする。→3.07(◎) B①: 国公立大学進学者10人増加。→(10人→13人) (△) B②: 難関私立大学者数を200名以上を維持。→(213人) (◎) B③: 外部機関の学力調査の判定値の1ランク上昇。 →ベネッセ・スタディサポートGTZ 9月時点でのランク; 昨年 B2 → 今年 B2 (△)
次年度に向けて	A①②④B②は概ね高い評価結果を得たが、B①及びB③が達成できなかった。また、A③は、筆答試験では本校始まって以来、初めて全国平均を超えたが、リスニングで全国平均越えが達成できなかった。来年度は、本校の「朝学」のうち週3日行っている3年英語をリスニング中心とすることで、全国平均越えの達成を図る。リスニングの教材については英検協会から提供を受けたものを使用し、実践を通じて得られた結果・効果について共同研究を行う。国公立大の合格者を増やすためには、英語だけでなく全教科において生徒が興味関心を高め、「よくわかる授業」となる必要がある。整備したICT機器をどう使えば「よくわかる授業」となるのか、職員研修を通じて共通理解を図っていく。